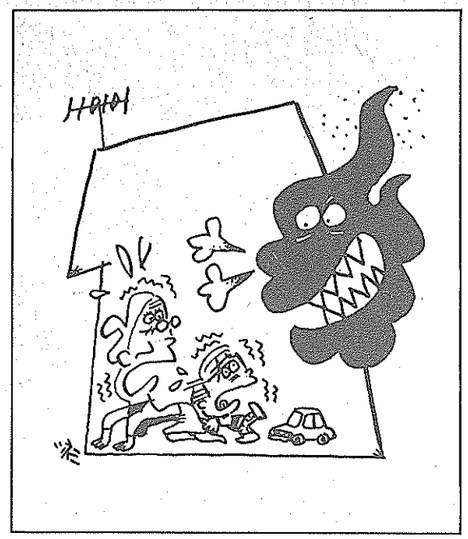


火事を出さない くらしの決意を！

いよいよ火災シーズン

空気の乾燥しやすい冬から春先は、火災のシーズンです。

あの時、もうちょっと注意していれば、火災は防げたかもしれない……。火災がおきる前の注意、〝防火〟をくらしのなかで真剣に考えていきましょう。

今年十月までに市内でおきた火災は十九件で、損害額は一千二百七十二万円です。り災世帯は十二世帯、り災人員は二十六人。また、このため一人が亡くなっています。

火災の原因をみてみると、やはり『たばこ』によるものが五件と一番多く、『電気関係』三件、『ガスコンロ』、『マッチ』、『タキ火』がそれぞれ二件と続いています。

今年も、『秋の火災予防運動』が、十一月二十六日から今月二日まで〝使う火を消すまで離すな自と心〟を合言葉に全国一斉に展開されています。市消防本部や各地区の消防団では、地区をまわって警戒にあたるほか、防火訓練や消火器の使い方などの講習を積極的に行い〝防火〟を呼びかけています。

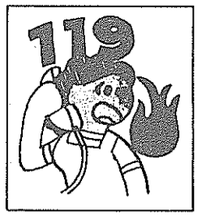
火災は、社会的な損失が大きいばかりか、人のいのちにかかわることです。いったん火災が発生すると、隣近所にかける迷惑なども大きく、一夜にして生活が破壊されます。毎日、その場その場で火を出さないあなたの注意が肝心です。その注意は、それほどむずかしいことではないのです。

くれぐれも火のあつかいには気をつけ後始末を忘れずに……。

火が出た！そのときあなたは……数分が勝負

『早く知らせる』『早く消す』『早く逃げる』。この三つの順序はそのときの状況次第です。しかし、大きな災害にならない勇気ある行動が大切ですから、消せると思ったら消化に努力すること。火事は初期消火がいちばん肝心なことです。

■早く知らせる



まだ自分で消せるかも知れない火の手をほったらかして、火事を知らせに外にとび出していくことではありません。自分で消火活動に当りながら、大声で近所に知らせ、一一九番を頼み、応援にかけつけてもらうことです。一人で、内しょで処理しようとするのはもっとも危険なことです。

■早く消す

火の手があがったら〝水〟をかけるか〝ふとん〟など大きくて厚いものをかぶせて初期の消火に努めること。しかし、料理の油に火が入ったときに水で消そうとすると危険です。思いきって野菜の菜っぱなど手近なもので鍋にふたをする。石油ストーブの灯油に火がついたときは水を真上からかける。

■早く逃げる

火事がこわいというのは、炎より煙です。とくに新建材などの煙は意外に早く室内に充満して、その有毒ガスにやられると呼吸困難になる危険性が高いのです。この煙から逃げることです。煙の中を逃げるときははうように姿勢を低くして、できればぬれタオルで口や鼻をおおって避難してください。

119番 電話のかけ方あれこれ

正しく119番

『モシモシッ』

『ハイ。こちら１１０番』

『火事です！』（あわてふためいている）

『ええと、お宅はどこですか。こちらから消防署へ連絡しますから…』

『わたしは○○です。早く来てください』（ガチャッ）

確実にはっきりと

確実に119番しましょう。そして、おちついて自分の場所を簡潔に、目標物などをあげてはっきりといいましょう。110番に電話する例は非常に多く、しかも、自分の所在地をはっきりいわないために消防車の到着が遅れることが多いといわれています。

数分はかかる消防車

消防車は、電話したからといってアッという間に来るものではありません。最低、数分間はかかります。この間、イライラ、おろおろしてただ待つだけでなく、消火や避難など勇気ある行動につとめましょう。

住居表示協力会スタート

『住居表示協力会』を〝設立する会〟が、さる十一月四日、南国郵帯局会議室で開かれ、会則や役員、活動方針などを決め、住居表示の早期実現に向けて協力していくことを申し合わせました。

住居表示制度は、町の境界を、道路や河川、鉄道などの永久的なもので適当な大きさに区切り、町名はわかりやすく、読みやすく、建物には合理的に順序よく右回りに番号をつけていくというもので、例えば、「南国市大埇○○番地」を「南国市大埇○丁目○番○号」というように改めるものです。

市の中心部、後免町や大埇地区では、人口の増加によって町名や番地が混乱し、郵便の配達に非常な支障を来たしているのが現状。こうしたことから、郵便局をはじめ各機関から制度の早期実現を望む声が寄せられていました。

当日は、南国郵便局の佐々木局長をはじめ、地元市議、警察、商工会など各関係機関の代表者約二十人と、市から国沢助役らが出席。

まず、佐々木局長が「現在県内では二市五町ですでに実施されている。新しい住居表示は近代都市のシンボルでもある。県下第二の都市、南国市の将来のためにも、ぜひ実施してほしい。このため全面的な協力をしていきたい。」とあいさつしたあと、「四十六年ごろからこの問題に取り組み、市にも協力を依頼している。主体はあくまでも〝市〟であり、市も前向きにやろうということになり、今回の設立になったもの。」などの経過の報告がありました。

これに対して出席者から、▽市役所の公簿などとの関係は、▽経費の問題はどうか、▽実施している他市の状況は、などの具体的な意見が出され討議が進められました。また、国沢助役は「まず後免町から手をつけていかなければならない。五十三年度で、航空写真図化の予算を計上、素案を作りたい。」と意向を示し、協力会のバックアップを要請しました。

役員は次のとおり。

▽会長＝山本尚一（市広報委員長）▽副会長＝吉村雅男（市商工会長）門田耕嘉（後免公民館長）▽理事＝橋田信夫（市議）、高島邦明（市議）、増弘富一（南国警察署長）▽監事＝平本忠国（四銀南国支店長）、玉井良男（高知相銀南国支店長）

燃えない 環境づくり あの手この手

■**居間は**……〈居間からの出火率が断然高い〉

▽防災カーテンの利用――消防庁認定の加工布地があります。

▽壁や天井――すでにできている壁や天井をおおうことのできる不燃性の材料（石骨ボードなど）があり、日曜大工程度の技術でできます。

■**台所は**……ガスコンロのまわりは燃えにくくする（ステンレスを張るときは、その裏に石綿板など不燃性の材質をはさむ）。ガスの上の棚は最低一㍍の間隔をつくる。

■**浴室は**……煙突がぬける壁の部分には〝めがね石〟を入れ過熱を防ぐ。

■**家のまわりの整理整とん**：木箱、ダンボールなど放火魔に材料を与えない。まわりの枯草は刈りとる。